

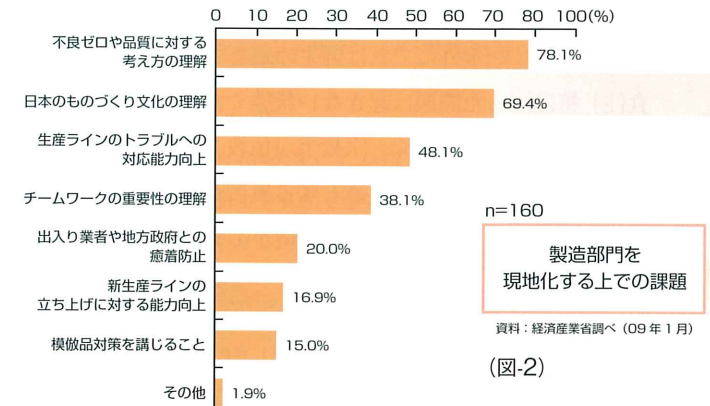
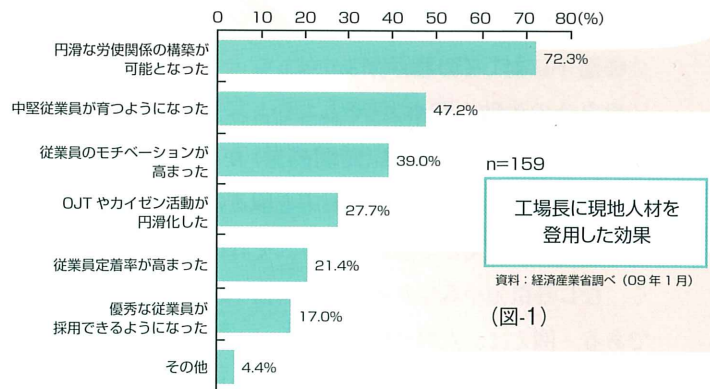
ローカル人材育成の効果

最後に09年1月の経済産業省調査によると、工場長のローカル化の効果として興味のある結果がでていいる。(図-1)

ローカル人材も責任のある職務に積極的に登用する効果は高いのである。もう一つの調査結果として、製造部門を現地化する上での課題を紹介してまとめとする。(図-2)

これらの調査結果から技術や技能の伝承以前に日本のものづくりの考え方をいかに伝承するかという点が重視されていることがわかる。特に上位4項目の課題については、ローカル化を目的と考え、生産性向上を手段として進めることが最も良い方法であると言える。いずれについても、座学では習得は不可能であり、生産性向上のための改善活動を通してOJTを繰り返し行う必要がある。そして、仕組みを改善し、日本人スタッフの率先垂範でローカル人材にも権限を持たせることが必要である。

このことから必然的に日本人スタッフのスキルの再点検が必要であり、項目1から4は海外工場に限らず、近年の日本での課題と一致するのである。

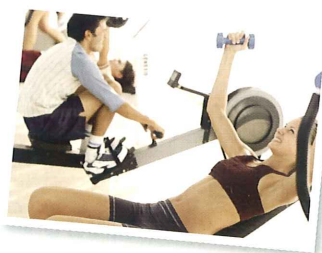


日常のソボ

コンサルタントの日記

インナーマッスル

インナーマッスルという言葉をご存知だろうか。日本語では深層筋という表現が一般的である。通常のウエイトトレーニングは主に大胸筋や腹筋などの表層筋を鍛えるが、インナーマッスルといわれる深層部の筋肉は鍛えにくい。しかし、普段あまり意識されない深層筋は反射神経に関係する筋肉で、細やかで素早い動作には必要不可欠な筋肉だ。また、深層筋の鍛錬は関節を固定する効果があり、関節痛や故障の予防にもなるという。



インナーマッスルを鍛えるには専門家の指導がないと難しいといわれる。そんなインナーマッスルを簡単に鍛錬できる器具をある企業が開発した。5,000もの工場が集まる「ものづくりの街」東京・大田区で金属加工製品を手がける三力工業(株)がそうだ。首都大学大学院と共同開発した「アームツイスター」はアルミパ

イプとバネを組み合わせた構造で、腕・肩・手首などの深層筋を手軽に鍛錬できるという。あまり力を入れずに鍛錬できるのが特徴で、リハビリ用などでも用途は広そうだ。ひそかに筆者は来年(2010年)のヒット商品になるのではと予想している。

近所のコンビニに買い物に行ったら「いらっしゃいませ」と決まり文句が返ってきた。ファーストフード店などと同様、接客マニュアルがあるのだろう。お客が来るとほとんど機械的に声をかけているようだ。品物を持ってレジで「初雪が降って今日は寒いね」と声をかけてみた。「ほんとですね。いつもありがとうございますと返ってきた。マニュアルにない自然なコトバが届いてホッとした。今年心はインナーマッスルを鍛えたい。

